

西東京市の産業振興における現状と課題の整理

西東京市の産業振興を取り巻く動向

社会・経済の動向

- ・少子高齢化のさらなる進展に伴う現役世代（担い手・働き手）力の減少
- ・コロナ禍における消費者の意識や行動の変化（非接触・非対面志向へ）
- ・デジタル化の進展や働き方改革に伴うワークスタイルの多様化
- ・若い世代における副業や兼業への関心の高まり
- ・原油価格の高騰や部素材不足等による物価高騰
- ・企業におけるDX化（デジタルトランスフォーメーション）の推進
- ・災害や感染症などリスクに備える企業のレジリエンス（適応力）の強化
- ・企業におけるSDGs（ダイバーシティ、脱炭素化、地域貢献等）の推進
- ・インバウンドなど観光政策の重点を「量」から「質」に転換

西東京市における動向

- ・西東京市の人口は、推計によると令和9（2027）年まで増加し続けた後に緩やかに減少する。
- ・若いファミリー層の転入が多く今後も当面20万人を維持する見込み。
- ・市内に5駅を有し、都心へのアクセスが良い。
- ・都市と農業が共存しているが、農地は年々減少している。
- ・市内商店街では空き家や空き店舗を活用した地域活性化の取り組みが一部で展開されている。一方で、商店会組織の解散などの動きも見られる。

【現行計画期間における取組成果】

- ・女性の創業支援事業「ハンサム・ママ」などにより、他市との差別化が図られ、西東京市モデルができつつある。
- ・創業スクールやビジネスプランコンテスト等を開催し、起業・創業がしやすい環境の整備を図り、創業者数が増加した。
- ・商店会の見える化としてフラッグやマップを作成し、商店街のイメージ向上を図った。
- ・空き店舗活用のために、チャレンジショップ事業を実施した。（商工会）
- ・めぐみちゃんメニューとして小・中学生考案メニューを募集し、事業者及び農業者の販路拡大・PRを支援した。
- ・創業カフェや交流会を開催し、事業者交流の場を支援した。

消費者アンケート

【消費者動向】

- ・食品や日用品以外の買い物や外食等については、市外の店舗の利用が多い。
- ・商店街の利用状況は、自宅周辺の商店街の有無によって差が生じている。
- ・事業者支援策や消費喚起事業に関して、実施内容や利用方法についての情報発信が不足していた。
- ・歩行者が楽しみながら買い物ができる商店街が求められている。

【就労】

- ・収入の少なさや精神的な負担が課題となっている。
- ・若い世代は、収入を増やす手段として起業や副業に興味を持っている。

【産業振興】

- ・イベントの開催や空き店舗の活用など、商店街の活性化を通じた地域振興が重視されている。
- ・西東京市ならではの特徴や特産品を市外にPRし、集客や人材確保につなげることが求められる。
- ・西東京市で活躍できる人材の育成が必要とされている。
- ・市内での雇用や消費を促進し、経済循環を生むことが期待されている。

事業者アンケート

【市の取組みへの評価】

- ・商店街に関する施策は、満足度が低く重要度が高い結果となっている。
- ・若い経営者は施策に関する満足度や重要度が高い傾向にある。

【事業承継・人材確保】

- ・個人事業主や、経営者が高齢である事業者は、事業承継を行わず廃業を予定しているところが多い。
- ・小規模事業者ほど後継者や人材の確保に課題や困難を抱えている。
- ・外国人や障がい者の雇用に関するハード・ソフト両面の課題が雇用促進の妨げとなっている。

【外部連携】

- ・若い経営者や新規設立の事業者は、外部連携に対する意欲が高い。
- ・事業者と企業・大学をつなぐ存在が求められている。

【感染症、物価高騰】

- ・新型コロナウイルス感染症と物価高騰の影響は、ともに現在も継続している。
- ・コストの増加が企業活動の大きな課題となっている。
- ・事業者支援策や消費喚起事業の利用状況は経営者の年齢によって差が生じている。

【商店会】

- ・加盟率は業種によって異なるが、若い経営者も加盟する意欲を持っている。
- ・商店会に加盟するメリットを明確に示し、積極的に情報発信していくことが求められている。

【今後について】

- ・商店街の活性化や起業・創業支援を通じて市内に人を呼び込み、地域の経済循環を生むことが求められている。
- ・事業者間の連携を推進・強化する仕組みや人材が必要とされている。
- ・若い経営者や小規模事業者に対する定期的・継続的な支援が求められている。

西東京市の産業振興に対する市民の声

事業者等ヒアリング

【事業者】

- ・コロナ禍や物価高騰の影響の大小は業種によって異なるが、影響は現在も継続中である。
- ・コロナ禍で減少した事業者同士の交流や連携の機会を取り戻すことが求められている。

【商店会】

- ・商店会の会員数増加につなげるために、商店会に加入するメリットの明確化等の対策が求められている。
- ・商店街維持のため、空き店舗対策が重視されている。

【大学・研究機関】

- ・現在、西東京市と連携する機会が少なくとも、今後連携できる可能性は高い。

【西東京市の現状と課題】

- ・西東京市のメリットとして、都心へのアクセスの良さと住みやすい環境のバランス等が挙げられた。
- ・西東京市のデメリットとして、市の知名度やブランド力の低さ、これといった特徴がない点を挙げた事業者が多い。

次期計画において対応すべき課題

■持続可能な「農」が共生するまちをつくる

- ・地域社会の財産である都市農地の保全と継承
- ・都市と共生し続けられる都市農業のあり方
- ・農業体験等の、市民が農業を身近に感じられる機会の提供
- ・地産地消の促進

■多様な「しごと」が生まれ循環するまちをつくる

- ・中小企業における人材不足と後継者確保
- ・DX化や脱炭素化推進のための人材・資金の不足や経営戦略の欠如
- ・多様化する消費者のニーズに応える商品・サービスの提供
- ・消費行動の変化（デリバリー、巣ごもり消費等）への対応や消費者利便性の向上
- ・起業できる人材やデジタル人材の育成（子どもへの起業教育など）
- ・若者や高齢者など、幅広い世代に対する起業・創業支援
- ・事業者に対する定期的・継続的な支援
- ・起業・創業拠点の提供
- ・多様な働き方を可能とする環境の整備
- ・事業者、企業、大学の連携の推進・強化
- ・事業者間の交流機会の創出
- ・新たな事業展開に向けたマッチング支援
- ・コロナ禍や物価高騰に伴うコストの上昇

■身近な「商店街」が暮らしを支えるまちをつくる

- ・商店街の組織力強化や新たな価値の創出
- ・商店会の会員数の減少、高齢化
- ・後継者不足への対応
- ・キャッシュレス決済等への対応
- ・商店街内の空き店舗対策
- ・商店会同士の交流・連携の推進
- ・商店会と地域住民や学生の連携支援
- ・商店街や商店会に関する情報発信
- ・商店街を中心としたまちのにぎわいの創出
- ・商店街の役割の多様化
- ・歩行者が楽しめる商店街づくり
- ・店舗の種類や品揃えのさらなる充実

■魅力ある「西東京市ブランド」が輝くまちをつくる

- ・地域資源の活用と情報発信力の強化（「西東京市ブランド」の構築と認知度の強化）
- ・「西東京市」の知名度向上
- ・消費の市外流出
- ・地域内における経済の好循環の創出
- ・取組みのターゲットの明確化
- ・地域で活躍する人材の育成
- ・市内外の多様な主体との連携
- ・商店街や地域を盛り上げるイベントの開催